

海外派遣研究助成事業による研究の成果

研究者氏名	大庭 篤志	印
所属機関	がん研有明病院	
<ul style="list-style-type: none"> ・研究に従事した外国の研究機関名 ・参加した国際学会・会議名 	Americas Hepato-Pancreato-Biliary Association Annual Meeting 2018 米国肝胆膵外科学会 2018 年次集会	
渡航期間	自 平成 30 年 3 月 7 日 至 平成 30 年 3 月 13 日	
<ul style="list-style-type: none"> ・研究内容 ・国際学会・会議内容 	(口演) The Clinical Impact Of Left Gastric Artery Reconstruction/Preservation During Distal Pancreatectomy With Celiac Axis Resection For Pancreatic Body Cancer	
<p>研究成果 (要約: 800 字)</p> <p>膵体部進行膵癌の根治的治療には腹腔動脈幹合併膵体尾部切除術 (DP-CAR) が不可欠であるが、虚血性合併症が大きな問題となってきた。本研究では虚血性合併症を回避する試みとして、2011 年から 2017 年まで当施設で膵体部癌に対し行った左胃動脈 (LGA) 血行の再建/温存を伴う DP-CAR 42 例の成績を検証した。内訳は LGA 再建 DP-CAR 20 例、LGA 温存 DP-CAR 22 例、R0 切除率は 85%、90 日以内の手術死亡率 0%、虚血性胃障害 2 例 (5%)、胃穿孔 1 例 (2%)、虚血性肝障害 0 例であり、1、3、5 年全生存率は、85%、36%、22%であった。本術式は、根治性と機能温存を両立可能な治療法であるとの研究結果を報告した。DP-CAR は諸外国では確立していないアグレッシブな術式であり、症例の適応、術式の留意点、化学療法との組み合わせについての議論が行われた。腫瘍に対して、このアグレッシブな術式が本当に必要なのかという質問に対しては、術前あるいは術中に腫瘍の進展を正確に判断することは難しく、かつ今までのところ、安全に治療が完遂できているので、我々の施設では今後も積極的に行い、症例を蓄積してまた報告すると答えた。膵体部進行癌に対する治療成績の改善に向けて、自分自身としても意義深い発表であった。</p>		